

②字翁長まちあるき

日時：平成 26 年 10 月 25 日（日）9：30～12：00

参加者：19 名

■字翁長について

字翁長は、昔ながらのたたずまいが多く残っており、花や緑で彩られた景観が広がっています。また、ジョン万次郎のゆかりの地であることや、琉歌の瓦屋節にまつわる家があるなど歴史を感じることができる地域です。

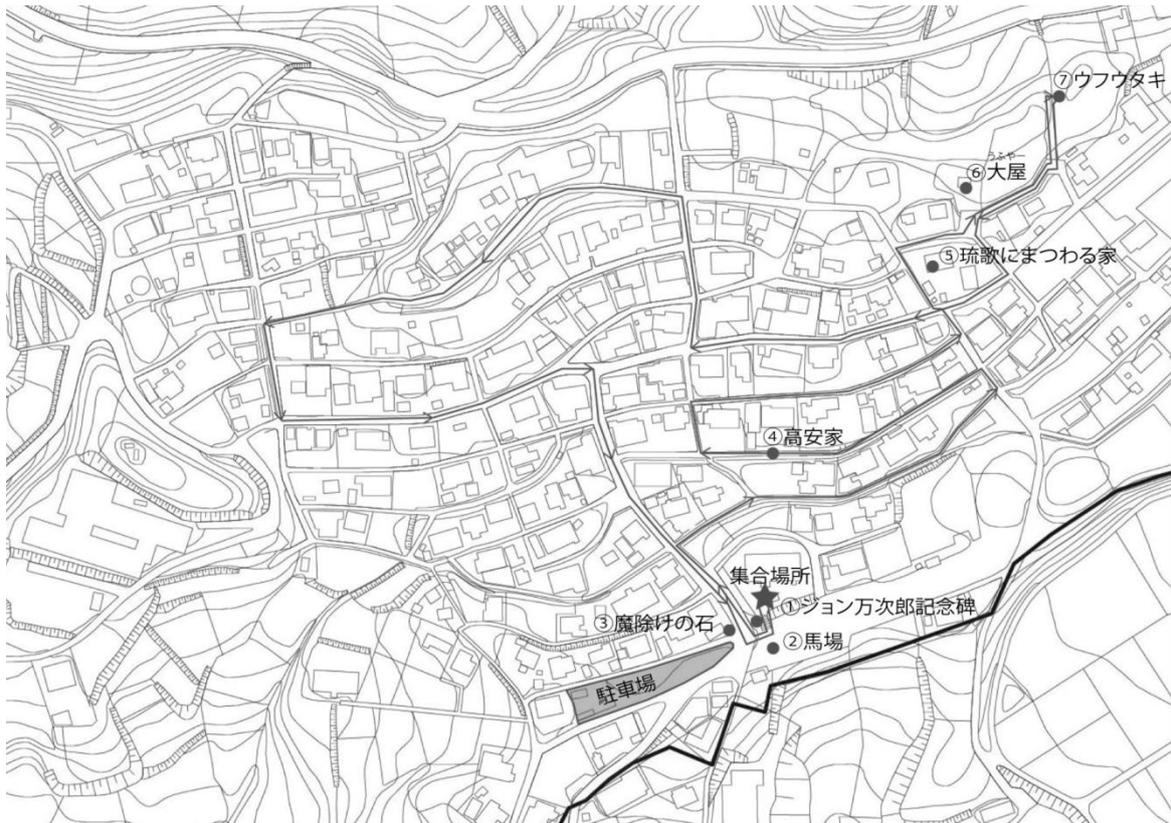
■プログラム

9:30	翁長公民館集合、説明
9:40	字翁長まちあるきスタート(ガイド 赤瓦ちよーびん氏)
11:30	公民館にてガイドへの質問タイム
12:00	終了

■まちあるきの様子



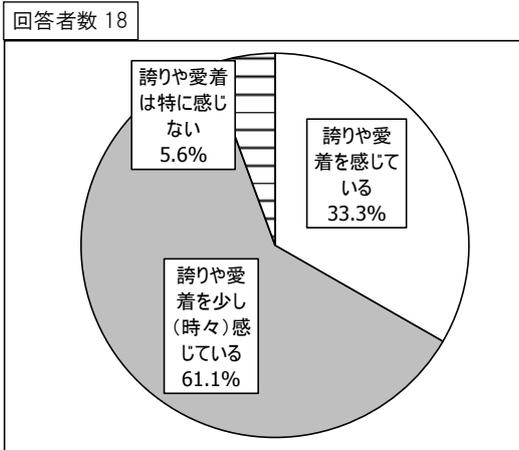
■字翁長まちあるきルート



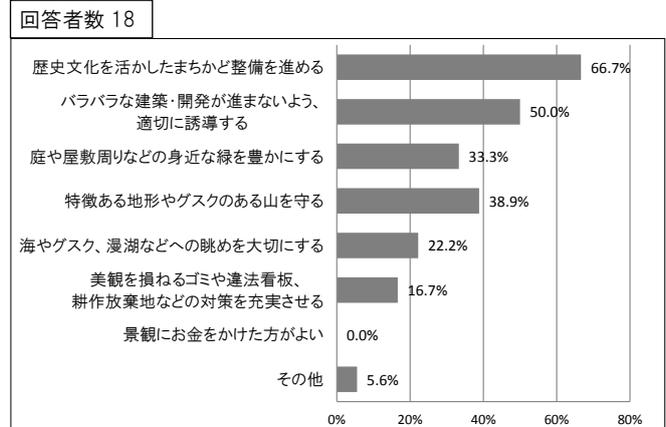
代表的資源	内容
①ジョン万次郎記念碑	豊見城市字翁長とゆかりのあるジョン万次郎を後世に伝えようと建立された記念碑です。ジョン万次郎は、「日米修好条約」の使節団の主任通訳官を努めるなど、鎖国から開国へと激動する日本の歴史舞台で活躍した一人です。日本が鎖国中であったため、帰国の手段に琉球を最初の地に選んだとされています。首里王府により帰国まで現在の豊見城市字翁長の高安家に約半年間を過ごした後、幕末の日本へ戻ることとなります。
②馬場(ウマイ)	字翁長の馬場では、毎年旧暦 8 月 15 日には「豊年祭」が行われ、空手やエイサー、綱引きなどが披露され、最後には旗頭ガマーが行われるなど地域の憩いの場として利用されています。
③魔除けの石	地元長老の話によると、昔はこの石を持ち上げるなど運動のために使われていたそうです。その後、運動にちょうどよい別の石が出てきたため、この石は魔除けとして使われるようになりました。
④高安家	ジョン万次郎が半年間滞在した高安家。当時の高安家は焼失してしまったそうですが、ジョン万次郎が飛び越えたとされるヒンプンは今でも残っています。
⑤瓦屋節にまつわる家	瓦屋節とは、沖縄にいた外国人の陶工に見初められた女性が王府の命令でその陶工と結婚したが、実はその女性は結婚して夫がいました。その女性は無理やり別れさせられた夫を思って毎日悲しんでいたということです。この家は、その女性が外国人と結婚させられる前に住んでいたとされる家です。
⑥大屋(ウフヤー)	大屋の前方は、小さな広場になっており、卯年と酉年のウフアシビ(旧暦八月十五夜の大遊び)には、旗頭の奉納などがあります
⑦ウフウタキ	ウフウタキへは正月のサータータティウグワン(製糖の立て御願)、旧暦九月のタキムヌメー(御嶽物参)の時に部落からの拝みがあります。各門中からは、正月ハチウグワンや、五月・六月の両ウマチーなどに拝みがあります。

■参加者アンケート結果

問 1.豊見城市の景観についてどう感じますか。



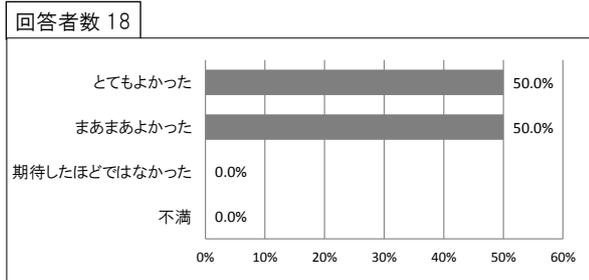
問 2.今後、豊見城市ではどのような景観づくりが必要と感じますか。(3つまで選択)



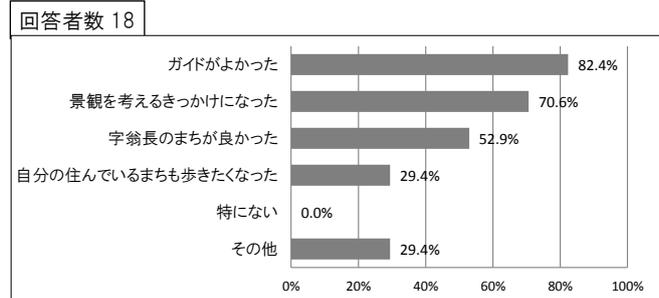
〈その他内訳〉

説明板などの表示が必要

問 3.今回のまちづくり塾(字翁長まちあるき)に参加していかがでしたか。



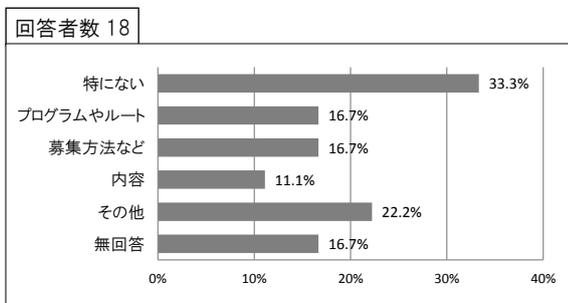
問 4.今日の講座で良かったところや気づいたところを教えてください。(複数回答)



〈その他内訳〉

歩いてみて地域の歴史や意味がいろいろある／空き家が多く気になった／普段の生活でなんでもないものが実は観光素材になりうることをあらためて感じました／集落の中を歩くことがないので、機会があつてよかった／財政の分配が偏っていません。均衡や公平を覚えます。ウフウタキ、火の神等手入れの跡が感じられない。

問 5.今日の講座で改善した方がいいところを教えてください。(複数回答)



〈その他内訳〉

字豊見城まちあるきでは、夏真っ盛りでの実施のため、多少しんどさがありましたが、今回は時期も時間も丁度よかったと感じました／集合場所の説明をもう少しわかりやすくしてほしい。今日は迷いました／別の集落もコース設定してほしい／マイクの声が聞き取りにくいところがあり残念です。住民の方への気配りとは思いますが方法がありませんか。

問 6.今後のまちづくり塾について、ご自由なご意見をお聞かせください。

- ◆嘉数地域や根差部地域のまちまわりもやってほしいと思います。ちょーびんさんの説明は毎回とてもいいです。
- ◆塀への「石敢當」など翁長の特徴がみられてよかった。今後も別の集落歩きを検討してほしい。前回の豊見城は暑かったので、今頃の季節がいい。10月～3月に2ヶ月に1回くらいあるとありがたい。
- ◆みるところがたくさんあり、勉強になりました。集落内のごみも少なくきれいでした。
- ◆歴史あるまちでありながら、ブロック塀が多かった。
- ◆竹が多い割に活用されていない。雑木に見えた。
- ◆地域がわかりづらい上に標識が少なかった。
- ◆川にフタをするのではなく、活用する方法を考えたらどうか。
- ◆これまでは何となく歩いていたりしていたが、古いたたずまいや、昔からの言い伝えなどを聞くとモノの見方も変わらと思った。そのきっかけになったのはよかった。残してほしい風景があった。
- ◆別の地区でもやってほしい。
- ◆建築ありきのまちづくりではなくて、価値のある、価値が生まれるまちづくりをしてほしい。
- ◆(住んでいる)地域の方も参加してもらい、この地域にしかない話が聞ければもっと思いいます。
- ◆当たり前の風景だと思っていたこと(花ブロック、二階にある洗濯物干し場、ヒンプン、草花、看板など)が今後残しておきたい風景だとは思わなかった。空屋敷が多いので、利用法を考えてみたら。
- ◆今回のような地域歩きを継続してよってほしい
- ◆そのままでもいいと思います。
- ◆豊見城の中心部がどこであるのか。市役所のある翁長、豊見城中央病院周辺、アウトレットモールやTOMITONを中心とした商業地、瀬長島、美らSUNビーチ、マングローブの漫湖などあるが中心地を定め各地を放射線のように結ぶ。南部の道路とつながって縦横無尽に交流できる豊見城が那覇のベッドタウンだけでなく、セカンドシティーへ。
- ◆欲しい施設:映画館。絶対に作ってはならないもの:「カジノ」豊見城市に限らない全県いけません。子どもが安全に幸せに暮らせる市を望みます。
- ◆豊見城市の「景観」について考えるのはとても良い目のつけ方です。ますます発展すると思われる市ですので、自然を残し(緑、海、川、拝所、祭り、芸能等)、安全で市民が健康に暮らせる全国No.1を目標にかかげ、市民・行政が広い知恵を出し合いつくりあげる。住民への周知が重要です。